

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 第14回理事会議事録

1. 開催日時

平成28年7月25日（月曜日）午前10時00分

2. 開催場所

東京都港区虎ノ門一丁目23番1号虎ノ門ヒルズ森タワー会議室

3. 出席者数

理事総数 35名 出席理事数 27名

監事総数 2名 出席監事数 1名

4. 出席者氏名

名誉会長 御手洗 富士夫

理事 森 喜朗、武藤 敏郎、布村 幸彦、竹田 恆和、河野 一郎、
河野 博文、佐藤 広、橋本 聖子、中森 邦男、米村 敏朗、
谷本 歩実、田中 理恵、横川 浩、川井 しげお、高島 なおき、
河野 雅治、松本 正義、麻生 泰、秋元 康、高橋 治之、
萩生田 光一、平岡 英介、鈴木 大地、富岡 勉、
塩見 清仁、泉 正文、山本 隆

監事 黒川 光隆

監事候補者 武市 敬

5. 議事の経過の概要及び議決の結果

上記のとおり定足数の出席があったので、定刻、定款第33条の規定に基づき代表理事（会長）森喜朗氏が議長席に着き開会を宣し、挨拶をした後、本理事会の進行役として理事武藤敏郎氏を指名し、武藤敏郎氏はそれを承諾した。

その後、進行役武藤敏郎氏は、直ちに下記議事の審議及び報告事項の報告に入った。

なお、進行役は、監事長谷川明氏は、やむを得ない理由により、本理事会を欠席する旨議場に報告した。

〔決議事項〕

第1号議案 副会長の選定について

議長は、当法人の理事1名が辞任したことに伴い、副会長が6名から5名になったため、別紙資料1記載のとおり、理事山本隆氏を新たに副会長に選定したい旨述べた。

その後議長が、その承認を議場に諮ったところ、満場一致の議決をもって原案どおり承認可決された。

なお、議長は、副会長山本隆氏には、東京都との調整を担当してもらう旨報告した。
その後、進行役の指示により、副会長山本隆氏が挨拶をした。

第2号議案 評議員への提案について

議長の指示により進行役が指名し、事務局は、当法人の評議員会を書面決議の方法により行いたい旨述べ、当法人の監事が辞任することに伴い、新たに監事1名を選任すべく、別紙資料2記載のとおり、一般法人法第194条に基づき評議員に提案し、当法人の評議員全員の同意を求めたい旨述べた。

その後議長が、その承認を議場に諮ったところ、満場一致の議決をもって原案どおり承認可決された。
なお、進行役は、本理事会に、監事就任予定者である武市敬氏が出席している旨報告した。
その後、進行役の指示により、武市敬氏が挨拶をした。

第3号議案 危機管理基本規程の制定及び事務局規程の改正について

議長の指示により進行役が指名し、事務局は、現在構築している危機管理体制を文書規程として明文化すべく、別紙資料3-1記載のとおり、危機管理基本規程を制定したい旨述べ、規程の内容等を説明した。

続いて、当法人に経営企画室を設置することに伴い、別紙資料3-2記載のとおり、当法人の事務局規程を改正したい旨述べ、その目的及び改正内容等を説明した。

その後議長が、当法人の危機管理基本規程を制定すること及び事務局規程を改正することにつき承認を議場に諮ったところ、それぞれ満場一致の議決をもって原案どおり承認可決された。

第4号議案 追加種目について

議長の指示により進行役が指名し、まず、種目追加検討会議の座長を務める名誉会長御手洗富士夫氏が追加種目の検討経緯や会場選定の経緯について発言した。

その後進行役の指名により事務局は、追加種目の検討経緯、会場選定の経緯、各会場予定地及び今後のスケジュールとして、ブラジル現地時間平成28年8月3日のIOC総会において、IOCと共に追加種目に関わるプレゼンテーションを行う予定等を説明した。

その後議長が、会場予定地及び今後のスケジュール等につき承認を議場に諮ったところ、満場一致の議決をもって原案どおり承認可決された。

第5号議案 アクション&レガシープラン2016の策定及び東京2020参画プログラム（仮称）について

議長の指示により進行役が指名し、事務局は、別紙資料4-1記載のとおり、アクション&レガシープラン2016の全体概要、プランの構成及び策定に向けた重要な視点並びに2020年に向けたスケジュール等を説明した。

続いて、別紙資料4-1及び4-2記載のとおり、東京2020参画プログラム（仮称）の概要、枠組み、実施可能な事項と留意事項、メリット、申請対象団体、対象となるアクション、申請方法及び今後のスケジュール等を説明した。

その後議長が、アクション&レガシープラン2016を策定すること及び東京2020参画プログラム（仮称）を開始することにつき承認を議場に諮ったところ、それぞれ満場一致の議決をもって原案どおり承認可決された。

理事より、様々なスポーツ団体や各国内競技連盟（NF）が参画できるように配慮してもらいたい旨の意見が出て、事務局はできるだけ多くのスポーツ団体やNFと一緒に取組んでいく旨回答した。

〔報告事項〕

1. 東京2020大会に向けたPRについて

議長の指示により進行役が指名し、事務局は、別紙資料5-1記載のとおり、東京2020大会PRメッセージについて、その広報機会及び発信するメッセージの内容・趣旨等を報告した。

続いて、別紙資料5-2記載のとおり、リオ大会に関連して実施するフラッグハンドオーバー及びTokyo2020 JAPAN HOUSEの各事業の内容等を報告した。

続いて、別紙資料5-3記載のとおり、東京2020オリンピック大会開催の4年前にあたり開催した東京2020オリンピックカウントダウンイベントについて、その概要、当日の参加者数等を報告した。

続いて、別紙資料5-4記載のとおり、リオ大会後の東京2020大会に向けた機運醸成のために実施する事業内容等を報告した。

その後、進行役の指示により、副会長竹田恆和氏がリオ大会に向けた準備状況等を報告した。

また、進行役の指示により、理事中森邦男氏がパラリンピックの状況を報告した。

2. Tokyo2020大会ボランティアプログラムの方向性について

議長の指示により進行役が指名し、事務局は、別紙資料6記載のとおり、Tokyo2020大会ボランティアプログラムの方向性、オリンピック・パラリンピック大会関連ボランティアの概要、オリンピック・パラリンピック大会ボランティアの趣旨・役割(例)、Tokyo2020ボランティアのミッション(案)、Tokyo2020大会ボランティアに望まれるもの(案)及び全体スケジュール等を報告した。

理事より、年齢制限に縛られない高校生や留学生の活用についての検討やボランティアの役割等についての意見が出て、事務局は検討していく旨回答した。

3. チケット関連事業について

議長の指示により進行役が指名し、事務局は、別紙資料7記載のとおり、チケット事業について、その販売目標、チケット事業のポイント、チケットと観客との関係構築に関する事項及びチケット事業スケジュール等を報告した。

理事より、学校での観戦による活用について検討してほしい旨の意見が出て、事務局は今後検討していく旨回答した。

4. 持続可能性に配慮した運営計画第一版について

議長の指示により進行役が指名し、事務局は、別紙資料8記載のとおり、持続可能性に配慮した運営計画の趣旨、検討体制、運営計画フレームワーク、計画の構成、計画の概要、東京2020大会が取組む持続可能性に関する主要テーマ及び計画の実現に向けたツール等を報告した。

5. 「Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン」について

議長の指示により進行役が指名し、事務局は、別紙資料9記載のとおり、Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドラインの位置づけ、検討経緯、今後のスケジュール及びガイドラインを踏まえた整備の考え方を報告した後、ハード編以外のガイドラインの内容を抜粋して報告した。

6. 事前キャンプガイド<初版>の公開について

議長の指示により進行役が指名し、事務局は、別紙資料10-1及び10-2記載のとおり、事前

キャンプの概要、これまでの経緯、申請受付状況、ガイド<初版>の公開日・言語・掲載数等及びガイドの周知に向けた取組み等を報告した。

7. スポンサーの決定について

議長の指示により進行役が指名し、事務局は、別紙資料11記載のとおり、平成28年7月25日時点において、ゴールドパートナー15社、パラリンピックゴールドパートナー3社及びオフィシャルパートナー24社との間にスポンサー契約を締結している旨報告した。

以上をもって本理事会における全議案の審議を終了したので、午前12時07分閉会を宣した。

平成28年7月25日

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会